

教科標準・教科細目表

一 学科

1 普通学科 33 時間

(1) 社会 (14 時間)

題目	訓練内容	時間
職業と訓練	入校時初期指導、修了時就職指導、オリエンテーション	14

(2) 体育 (10 時間)

題目	訓練内容	時間
レクリエーション	ソフトバレーボール、卓球、バドミントン等	10

(2) キャリア形成 (9 時間)

題目	訓練内容	時間
社会人としての基礎力向上	応募書類の作成、面接対応、自己PR作成	6
ジョブ・カード作成	ジョブカード作成支援	3

2 学科 332 時間

(1) 介護基礎（人間の尊厳と自立） (5時間)

① 尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念について知っている。

題目	訓練内容	時間
人間の多面的な理解と尊厳	人間を理解するということ 人間の尊厳意義 人権、そして尊厳をめぐる歴史的経緯 人権、そして尊厳に関する諸規定	1
自立の支援	介護における自立 自立への意欲と動機付け 自立した生活を支えるための援助視点 介護における自立支援の実践 実践例を通じた介護における自立支援の理解	2
人権と尊厳	介護における権利擁護と人権尊重 介護における尊厳保持の実践 尊厳を無視した介護の課題	1
筆記試験	理解度確認	1

(2) 介護基礎（社会の理解 I） (5時間)

① 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。

題目	訓練内容	時間
介護保険制度創設の背景と目的	介護保険制度の創設をめぐる社会的背景、1990年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の基本理念	1
介護保険制度の基礎的理解	介護保険制度の概要、保険者・被保険者、保険給付の対象者、保険給付までの流れ、保険給付の種類と内容、地域支援事業、国・都道府県・市町村の役割、その他の組織の役割、介護保険の財政	3
介護保険制度における専門職の役割	介護職、介護支援専門員、その他の専門職の役割	1

(3) 介護基礎（介護の基本Ⅰ） (10時間)

- ①介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や見取り、災害時における役割を理解している。
- ②個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。
- ③介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。

題目	訓練内容	時間
介護福祉士の役割と機能	介護福祉士の法的定義や義務を踏まえ、介護予防や見取り、災害時における役割	3
尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	利用者に合わせた生活支援 自立に向けた支援 介護の専門性	4
介護福祉士の倫理	介護福祉士としての倫理の必要性 日本介護福祉士会倫理綱領	3

(4) 介護基礎（コミュニケーション技術） (10時間)

- ①本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。
- ②利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し、活用できる。
- ③チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォローシップ等）に関する知識を理解し、活用できる。
- ④状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。

題目	訓練内容	時間
介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	話を聴く技法 利用者の感情表現を察する技法 利用者の納得と同意を得る技法 質問の技法 相談・助言・指導の技法 利用者の意欲を引き出す技法 利用者と家族の意向を調整する技法	5
介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション	チームのコミュニケーションとは 記録の意義と目的、記録の種類、記録の書き方と留意点、 情報の保護と管理、報告・連絡・相談、会議	4
筆記試験	理解度確認	1

(5) 介護基礎（介護過程Ⅰ） (20時間)

- ①介護過程の目的、意義、展開等を理解している。
- ②介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。
- ③チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。

題目	訓練内容	時間
介護過程の意義と目的	介護の概念の見直し、根拠に基づいた介護の実践、介護過程の必要性	2
介護過程の展開	介護過程の展開イメージ、アセスメント、計画の立案、実施、評価	16
介護過程とチームアプローチ	介護過程とケアマネジメントの関係性、介護過程とチームアプローチ	2

(6) 介護基礎（発達と老化の理解 I） (10時間)

- ①老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。
- ②老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。

題目	訓練内容	時間
老化に伴うこころの変化と日常生活への影響	老化が及ぼす心理的影響 老化による身体的機能の変化と心理的影響 社会的環境の変化と心理 主観的幸福感 QOL・生きがいの視点 老年期の適応課題とパーソナリティ	5
老化に伴うからだの変化と日常生活への影響	加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響 具体的な機能の変化	5

(7) 介護基礎（認知症の理解 I） (10時間)

- ①認知症ケアの取組みの経過を踏まえ、基本的な認知症ケアの理念を理解している。
- ②認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。
- ③認知症の人やその家族に対するかかわり方・支援の基本を理解している。

題目	訓練内容	時間
認知症ケアの理念	認知症ケアの理念、認知症ケアの視点	1
認知症による生活障害、心理・行動の特徴	「人」と「生活」の理解、認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか、認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（B P S D）、意識障害の理解	5
認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本	認知症の人にかかわる際の前提、実際のかかわり方の基本	4

(8) 介護基礎（障害の理解 I） (10時間)

- ①障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、基本的な障害者福祉の理念を理解している。
- ②障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。
- ③障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。

題目	訓練内容	時間
障害者福祉の理念	「障害」をどうみるのか、国際障害分類と国際生活機能分類、障害者福祉の基本理念	1
障害による生活障害、心理・行動の特徴	身体障害による生活上の障害 身体障害による心理・行動の特徴 知的障害による生活上の障害 知的障害による心理・行動上の特徴 精神障害による生活上の障害 精神障害による心理・行動の特徴	6
障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本	障害のある人に対する介護の基本的視点 家族に対する支援の基本的視点	3

(9) 介護基礎（こころとからだのしくみ I） 学科 (5時間)

- ①介護に関係したからだの構造や機能に関する基本的な知識を習得している。

題目	訓練内容	時間
移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠に関連するからだのしくみ	基本的な姿勢、基本的なからだのしくみ、それぞれの介助の意味	5

(10) 介護応用（社会の理解Ⅱ）

(30時間)

- ①家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。
- ②地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。
- ③社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。
- ④障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。
- ⑤成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。

題目	訓練内容	時間
社会と生活のしくみ	家庭生活の基本機能、家族・地域・社会集団と組織、ライフスタイルの変化	3
地域共生社会の実現に向けた制度や施策	地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみ	3
社会保障制度	社会保障の役割・意義と歴史、 ・社会保障の目的と機能・範囲と対象・しくみ 、各種保険、後期高齢者医療制度、雇用保険、公的扶助、社会手当、社会福祉	12
障害者自立支援制度	障害の種類と定義 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容	6
介護実践にかかわる諸制度	サービスの利用にかかわる諸制度、虐待防止・人権擁護・保健医療などの諸制度	5
筆記試験	理解度確認	1

(11) 介護応用（介護の基本Ⅱ）

(20時間)

- ①介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。
- ②チームアプローチにかかわる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。
- ③リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。
- ④介護従業者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。

題目	訓練内容	時間
介護を必要とする人の生活の理解と支援	「その人らしさ」の理解、高齢者の暮らしと支援の実際、障害のある人の暮らしと支援の実際、介護を必要とする人の生活環境の理解	6
介護実践における連携	多職種連携、地域連携	4
介護における安全の確保とリスクマネジメント	事故防止、安全対策のためのリスクマネジメント 事故防止、安全対策の基礎と実際 感染管理とリスクマネジメント 感染対策の基礎知識 感染症発生時の対応	6
介護従業者の安全	健康管理の意義と目的、健康管理に必要な知識と技術、安心して働ける環境づくり	3
筆記試験	理解度確認	1

(12) 介護応用（介護過程Ⅱ） (10時間)

- ①情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。

題目	訓練内容	時間
介護過程の実践的展開	事例で学ぶ介護過程の展開 介護過程の展開の実際で取り上げる事例と構成	9
筆記試験	理解度確認	1

(13) 介護応用（発達と老化の理解Ⅱ） (20時間)

- ①ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。
②老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。
③高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。

題目	訓練内容	時間
人間の成長・発達	人が発達していくことへの理解 生理的な発達、心理的な発達 発達段階の意味と一般的な発達区分 発達段階とエリクソンの発達段階説	6
老年期の発達・成熟と心理	老年期の人格（人格と尊厳） 老いの喪失体験を価値転換する心理変化 老年期のセクシュアリティの影響 サクセスフル・エイジングと老年期	6
高齢者に多くみられる症状・疾病等	高齢者に多くみられる症状・訴えとその留意点、介護を要する高齢者によくみられる病気・病態	7
筆記試験	理解度確認	1

(14) 介護応用（認知症の理解Ⅱ） (20時間)

- ①代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。
②認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。
③地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。

題目	訓練内容	時間
医学的側面からみた認知症の理解	認知症とは 認知症の診断 認知症の原因疾患と治療	6
認知症の人への支援の実際	初期の認知症への介護 中期の認知症への介護 後期の認知症への介護 認知症ケアにおけるチームアプローチ 家族へのレスパイトケア 家族へのエンパワメント	13
筆記試験	理解度確認	1

(15) 介護応用（障害の理解Ⅱ） (20時間)

- ①さまざまな障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。
②障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。
③地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。

題目	訓練内容	時間
----	------	----

医学的側面からみた障害の理解	視覚障害、聴覚・言語障害 運動機能障害、心臓機能障害 腎臓機能障害、呼吸機能障害 膀胱・直腸機能障害 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、肝臓機能障害、知的障害、 精神障害、発達障害、難病	16
障害の特性に応じた支援の実際	基本的視点に基づいた個別支援 家族の状態の把握と介護負担の軽減 地域におけるサポート体制	3
筆記試験	理解度確認	1

(16) 介護応用（こころとからだのしくみⅡ） (10時間)

- ①人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。
- ②生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。
- ③からだのしくみ、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。

題目	訓練内容	時間
人間の心理	人間の欲求の基本的理解、こころのしくみの基礎	1
人体の構造と機能	生命の維持・恒常のしくみ、人間のからだのしくみ、ボディメカニクスの活用	1
移動・移乗、食事、入用・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期における観察のポイント	変化に気づくための観察のポイント 医療職との連携のポイント	7
筆記試験	理解度確認	1

(17) 医療的ケア（学科） (60時間)

- ①医療的ケア実施の基礎
 - ・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
 - ・医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解している。
 - ・感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。
- ②喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）
 - ・呼吸のしくみとはたらき、吸引を受ける人の気持ちの理解など、喀痰吸引の基本的知識を理解している。
 - ・喀痰吸引における急変・事故発生時の対応などについて理解している。
 - ・喀痰吸引の実施手順（口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部）を理解している。
- ③経管栄養（基礎的知識・実施手順）
 - ・消化器系のしくみとはたらき、経管栄養を受ける人の気持ちの理解など、経管栄養の基本的知識を理解している。
 - ・経管栄養における急変・事故発生時の対応などについて理解している。
 - ・経管栄養の実施手順（胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養）を理解している。

題目	訓練内容	時間
医療的ケア実施の基礎	医療的ケア 安全な療養生活 清潔保持と感染予防 健康状態の把握	15
喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引概論 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	17

経管栄養（基礎的知識・実施手順）	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説	16
第1章から第3章の振り返りと実技に向けて	身体第1章から第3章の振り返り 経管栄養ケア実施の手引き 喀痰吸引ケア実施の手引き	11
筆記試験	理解度確認	1

(18) 事例検討 (10時間)

- ①介護業務にかかる事例の紹介と検討
- ②実習先施設の施設情報収集および実習目標の設定

題目	訓練内容	時間
事例の紹介と検討	介護業務における様々な事例を用いて検討（グループワーク）	5
実習目標の設定	実習先施設の情報収集および実習目標の設定	5

(19) 介護事務 (42時間)

- ①法規
- ②介護請求業務
- ③レセプト点検
- ④レセプト作成

題目	訓練内容	時間
法規	介護保険制度、介護報酬の請求についての知識	8
介護請求業務	介護給付単位数の算定、介護報酬明細書の作成、介護用語についての知識	10
レセプト点検・作成	レセプト点検・作成、試験対策	24

(20) 安全衛生 (5時間)

- ①安全衛生を理解している。

題目	訓練内容	時間
安全衛生	労働安全衛生、VDT作業、事故予防対策、健康管理	5

二 実技

339 時間

(1) 介護実技基礎（コミュニケーション技術） (10時間)

- ①援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。
- ②利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。
- ③状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。

題目	訓練内容	時間
介護におけるコミュニケーション技術	話を聴く技法 利用者の感情表現を察する技法 利用者の納得と同意を得る技法 質問の技法 相談・助言・指導の技法 利用者の意欲を引き出す技法 利用者と家族の意向を調整する技法	10

(2) 介護実技基礎（生活支援技術Ⅰ） (20時間)

- ①生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。
- ②ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。
- ③自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得している。
- ④居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。

題目	訓練内容	時間
----	------	----

生活支援と ICF	生活支援とアセスメント、ICFの視点とアセスメント	2
ボディメカニクスの活用	ボディメカニクスを活用した介護の原則	2
居住環境の整備と福祉用具の活用	居住環境の意義 生活空間と介護 居住環境のアセスメント 福祉用具とは 代表的な福祉用具 生活で福祉用具を活用する視点	2
移動・移乗の介護技術の基本	移動・移乗の介助を行うにあたって 体位変換の介助を行うにあたって 体位変換の介助におけるアセスメントの視点 体位変換の介助の実際 車いす介助を行うにあたって 車いす介助におけるアセスメントの視点 車いすの基本構造 車いす介助の実際 歩行介助を行うにあたって 歩行介助におけるアセスメントの視点 歩行介助の実際	2
食事の介護技術の基本	食事の介助を行うにあたって 食事の介助におけるアセスメントの視点 食事の介助の実際 誤嚥防止におけるアセスメントの視点	2
入浴・清潔保持の介護技術の基本	入浴の介助を行うにあたって 入浴の介助におけるアセスメントの視点 入浴の介助の実際 部分浴の介助 清潔保持の介助	2
排泄の介護技術の基本	排泄の介助を行うにあたって 排泄の介助におけるアセスメントの視点 排泄の介助の実際	3
着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本	衣服着脱の介助におけるアセスメントの視点 衣服着脱の介助の実際 整容の介助を行うにあたって 整容の介助におけるアセスメントの視点 整容の介助の実際 口腔清潔の介助を行うにあたって 口腔清潔の介助におけるアセスメントの視点 口腔清潔の介助の実際	3
家事援助の基本	調理、洗濯、掃除・ごみ捨て、衣服の補修・裁縫、衣服・寝具の衛生管理、買い物	2

(3) 介護実技基礎（こころとからだのしくみⅠ）

(15時間)

①介護に関係したからだの構造や機能に関する基本的な知識を習得している。

題目	訓練内容	時間
移動・移乗に関連するからだのしくみ	基本的な姿勢、基本的なからだのしくみ	4
食事に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、栄養素とエネルギー、代償的な栄養摂取法	2
入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、入浴と清潔保持の意味	3
排泄に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ	3
着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、着脱、整容、口腔清潔の意味	2
睡眠に関連するからだのしくみ	基本的なからだのしくみ、こころのしくみ	1

(4) 介護実技応用（生活支援技術Ⅱ）

(30時間)

①利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術

「環境整備」「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「休息・睡眠」「人生の最終段階における介護」「福祉用具等の活用」を行うことができる。

題目	訓練内容	時間
環境整備と福祉用具	利用者の心身の状況に合わせた環境整備と福祉用具の活用	2
移動・移乗の介護	一部介助または全介助を要する利用者の体位変換の介助 一部介助または全介助を要する利用者の車いす介助 安楽な体位の保持と褥瘡の予防 一部介助を要する利用者の歩行介助	5
食事の介護	一部介助または全介助を要する利用者の食事の介助 誤嚥・窒息の予防 脱水の予防	5
入浴・清潔保持の介護	一部介助を要する利用者の入浴介助 全介助を要する利用者の入浴介助	4
排泄の介護	一部介助を要する利用者の排泄の介助（トイレ、ポータブルトイレ、パッド交換） 頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応 その他の排泄に関するさまざまな介助	5
着脱、整容、口腔清潔の介護	一部介助または全介助を要する利用者の衣服着脱の介助 一部介助または全介助を要する利用者の整容の介助（洗面、整髪） 全介助を要する利用者の整容の介助（ひげの手入れ） 一部介助を要する利用者の整容の介助（爪の手入れ） 一部介助を要する利用者の口腔清潔の介助 状態別にみた口腔清潔の介助	4
睡眠の介助	不眠時の介助におけるアセスメントの視点 感覚機能が低下している利用者への介助 運動機能が低下している利用者への介助 認知・知覚機能が低下している利用者への介助 睡眠と薬	1
人生の最終段階における介護	人生の最終段階における介護の意味 人生の最終段階において何を支えるのか 危篤時の介護の実際 介護職、家族への支援の実際	1
筆記試験	理解度確認	1
実技試験	実技試験	2

(5) 介護実技応用（介護過程Ⅱ）

(15時間)

①情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。

題目	訓練内容	時間
介護過程の実践的展開	介護過程の展開の実際で取り上げる事例と構成 【事例1】施設における高齢者の介護過程 【事例2】在宅における高齢者の介護過程 【事例3】障害のある利用者の介護過程 演習【事例】介護老人福祉施設で生活する事例	15

(6) 介護実技応用（介護過程Ⅲ） (45時間)

- ①実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。
- ②知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。
- ③介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。
- ④知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。

題目	訓練内容	時間
介護過程の展開の実際	実際の事例をもとに、利用者の心身の状況に応じた介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画の立案、実施モニタリング、介護計画の見直し等）を学ぶ。 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を学ぶ。	43
実技試験	実技試験	2

(7) 介護実技応用（こころとからだのしくみⅡ） (50時間)

- ①人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。
- ②生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。
- ③からだのしくみ、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。

題目	訓練内容	時間
移動・移乗における観察のポイント	変化に気づくための観察のポイント 医療職との連携のポイント	11
食事における観察のポイント	変化に気づくための観察のポイント 医療職との連携のポイント	8
入浴・清潔保持における観察のポイント	変化に気づくための観察のポイント 医療職との連携のポイント	8
排泄における観察のポイント	変化に気づくための観察のポイント 医療職との連携のポイント	10
着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント	変化に気づくための観察のポイント 医療職との連携のポイント	6
睡眠における観察のポイント	睡眠のしくみ 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 変化の気づきと対応	2
人生最終段階における観察のポイント	人生最終段階の身体機能の特徴 死後のからだの変化 医療職との連携のポイント	3
実技試験	実技試験	2

(8) 医療的ケア演習 (10時間)

- ①喀痰吸引のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。
- ②経管栄養のケア実施の流れ（準備から実施、報告・記録まで）について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。
- ③救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを、1回以上行う。

題目	訓練内容	時間
----	------	----

経管栄養演習・実技試験	口腔内および鼻腔内、気管カニューレ内部	4
喀痰吸引演習・実技試験	胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養、経鼻経管栄養	4
救急蘇生法演習	救急蘇生法、AED使用の手順	2

(9) 介護技術 (24時間)

①「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」、「こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ」、「介護課程Ⅱ・Ⅲ」、「医療的ケア」の実技が実務者研修課程修了要件を満たしている。

題目	訓練内容	時間
介護技術	「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」、「こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ」、「介護課程Ⅱ・Ⅲ」、「医療的ケア」の実技が実務者研修課程修了要件を満たしている。	24

(10) パソコン実習 (45時間)

- ①Windows基本操作、文字入力、マウス操作ができる。
- ②ワープロソフトを使ってビジネス文書を作成できる。
- ③表計算ソフトを使って表作成、計算式・関数・グラフの挿入ができる。

題目	訓練内容	時間
Windows基本操作	Windows基本操作、文字入力、マウス操作ができる。	5
Word	ビジネス文書の作成、ワープロ検定対策	20
Excel	表作成、計算式・関数・グラフの挿入、表計算検定対策	20

(11) 施設実習 (70時間)

- ①施設居住型実習(7時間×5日)において、可能な範囲で見学、介護補助等の経験をし実務を学ぶ。
- ②通所・小規模多機能実習(7時間×3日)において、可能な範囲で見学、介護補助等の経験をし実務を学ぶ。
- ③訪問介護実習(7時間×2日)において、可能な範囲で見学、介護補助等の経験をし実務を学ぶ。

題目	訓練内容	時間
施設居住型実習	申し送り、カンファレンスの見学、各種福祉用具の使用場面の見学、関連機関との連携、コミュニケーション	35
通所・小規模多機能実習	送迎時の介助・健康状態の観察、介護予防プログラムの見学、基本的介護の実施、ケアプランの閲覧、行事への参加、実習記録、家族とのコミュニケーション、家事援助の実施	21
訪問介護実習	家事援助の実施	14

(12) 安全衛生作業法 (5時間)

- ①安全衛生作業法を理解している。

題目	訓練内容	時間
安全衛生作業法	労働安全衛生、事故予防対策、健康管理	5